

平成28年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日：平成29年4月7日

研究・研修課題名	栄養サポートチーム専門療法士資格取得に向けた研修補助
研究・研修組織名（所属）	リハビリテーション部 （所属：リハビリテーション科 総括責任者 馬庭 壯吉）
研究・研修責任者名（所属）	間壁 史良 （所属：リハビリテーション部 主任言語聴覚士）
共同研究・研修者名（所属）	間壁 史良 （所属：リハビリテーション部 主任言語聴覚士）

目的及び方法、成果の内容

①目的（800字程度）

摂食嚥下を扱う言語聴覚士が栄養管理を学ぶこと、栄養サポートチーム（Nutrition Support Team：以下 NST）に所属することは有意義であり、本研修者は当院の NST へ長期的に関わっていく中で、より一層の研鑽を積みたいと考えている。一般社団法人日本静脈経腸栄養学会（Japanese Society for Parenteral & Enteral Nutrition：以下 JSPEN）で「栄養サポートチーム専門療法士（以下、NST 専門療法士）」認定資格制度が定められており、主として静脈栄養・経腸栄養を用いた臨床栄養学に関する優れた知識と技能を認定するものである。この取得のため認定要件となる学術集会やセミナーへの参加ポイント取得をすすめ、NST 専門療法士となることを目的とする。

②方法（800字程度）

資格取得要件は以下の通り。

- ① 認定対象国家資格を取得していること
- ② 当該国家資格により5年以上、医療福祉施設に勤務し、栄養サポート関連業務に従事すること
- ③ 学術集会（10単位）に1回以上参加、臨床栄養セミナー（10単位）を1回以上受講すること
- ④ 本学会が認める学会、地方会、研究会へ参加し、参加単位数10単位以上を納めること
- ⑤ 認定教育施設において合計40時間の実地修練を修了すること
- ⑥ 上記①から⑤の条件を満たした後、認定試験に合格すること

要件①②は充足済み。本研修にて要件③の完了を目指す。

③成果（データ等の図表を入れて2000字程度）

平成28年度の JSPEN 学術集会、臨床栄養セミナーは共に予告通り開催された。
日時詳細及び履修内容等は以下の通り。

①JSPEN 臨床栄養セミナー

日時：平成28年10月1日（土）・2日（日）

名古屋国際会議場レセプションホール（名古屋市熱田区熱田西町1-1）

プログラム：

10月1日（土） 1日目

講義1「消化器解剖・生理

水谷 雅臣 先生（公立置賜総合病院 外科・消化器外科）

講義2「栄養素の生化学・代謝」

谷口 正哲 先生（特定医療法人共和会共和病院 内科）

講義3「水分・電解質代謝」

朝倉 之基 先生（東海大学医学部附属病院 看護部）

講義4「栄養障害の病態生理」

丸山 常彦 先生（一般財団法人筑波麓仁会 筑波学園病院 外科・消化器外科・肛門外科）

講義5「栄養評価」

篠田 純治 先生（トヨタ記念病院 内分泌科/栄養科）

講義6「小児の特殊性と栄養必要量」

高増 哲也 先生（神奈川県立病院機構神奈川県立こども医療センター アレルギー科）

10月2日（日） 2日目

講義7「経腸栄養剤の種類と選択」

岡本 康子 先生（浜松医療センター 栄養管理科/NST 管理室）

講義8「経腸栄養法の管理」

伊藤 彰博 先生（藤田保健衛生大学医学部外科・緩和医療学講座）

講義9「静脈栄養法の処方設計」

水谷 一寿 先生（医療法人社団洞仁会洞爺温泉病院 薬局）

講義10「静脈栄養法の管理」

鍋谷 圭宏 先生（千葉県がんセンター 消化器外科 食道・胃腸外科/NST）

講義11「在宅栄養療法」

柴田 佳久 先生（豊橋市民病院 一般外科・肛門外科）

臨床栄養セミナーは歯科医師、管理栄養士、看護師、薬剤師、臨床検査技師、歯科衛生士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を対象として開催され、全国から300名弱の受講者がみられた。

講義は消化器官の解剖生理にはじまり、代謝、栄養病理、各種栄養法、小児への対応といった包括的かつ密度に富んだ内容であった。消化器内科学、栄養病理学、静脈栄養法の関連については普段触れる機会の少ない分野であり基礎理解に難渋したが、NSTに普段触れている中で馴染みの深い内容も多くみられ、全体としては非常に興味深い内容であった。本セミナーの履修分野はNST専門療法士認定試験の出題範囲に準拠した内容となっているため、将来的な受験に向けて継続した学習を行っていきたい。

②第32回日本静脈経腸栄養学会学術大会

日時：平成29年2月23日（木）・24日（金）

岡山シンフォニーホール（岡山県岡山市北区表町1-5-1） 他10会場

会長：平井 敏弘（川崎医療福祉大学消化器外科学 教授）

2月23日（木） 1日目

- ・一版演題（口演）7「栄養と摂食嚥下障害」
- ・一版演題（口演）21「癌治療と栄養管理」
- ・シンポジウム3「嚥下障害患者の栄養療法」

- ・要望演題 5「サルコペニア」
- ・ポスターセッション

1 日目、一般演題（口演）7「栄養と摂食嚥下障害」にて、嚥下障害に起因する誤嚥性肺炎に関する研究報告があった。高齢者の誤嚥性肺炎においては初期絶食下で管理されることが多いが、肺炎による全身状態の悪化、入院による環境ストレスなども加わってせん妄の出現ないし廃用症候群の進行が助長され、この状況下で長期の経口絶飲食となった場合は、摂食ないし嚥下機能の低下を招く危険性がある。

具体的には 10 日以上の絶食は経口摂取の再獲得不良及び入院日数の延長に関与するものと示唆されたという報告であった。従って、言語聴覚士による嚥下機能の評価、訓練適応の有無を早期段階から考慮することが重要とされた。当院臨床においても長期絶飲食管理後に嚥下機能低下状態を生じた症例には日常的に遭遇するが、どの程度の絶飲食期間が悪影響を生じるのかについては明確な指標がないものであったため参考としたい。

2 月 24 日（金） 2 日目

- ・一版演題（口演）54～56「栄養リハビリテーション」
- ・ポスターセッション
- ・シンポジウム 13「リハビリテーションにおける栄養療法」

2 日目はリハビリテーションと栄養の関連トピックを中心に活動した。近年、日常生活動作（Activities of Daily Living：以下 ADL）能力の回復に栄養状態との関連が注目されている。リハビリテーションの積極的介入期に必要なエネルギー量が十分に担保されず、結果として低アルブミン血症が回復期リハビリテーション患者に意外に多く認められるとの報告が以前からなされている。リハビリテーション効果は骨格筋量の増減が一指標であり、L-カルニチン、分岐鎖アミノ酸（BCAA）といった栄養素の有効性に関する研究報告が盛んに行われている。本学術集会においても多くの事例報告を学ぶことができた。

当初の計画に従い、JSPEN 学術集会と臨床栄養セミナーに参加し、学会の定める必須参加項目 20 単位を取得した。今後も随意参加単位の取得、実施修練などの認定要件をすすめ、NST 専門療法士の認定につなげたい。

摂食嚥下リハビリテーションに携わる中で、対象病態上、静脈ないし経腸栄養を主とした何らかの代替栄養手段を行っている患者との関わりは必然であり、これらの栄養法について直接的な関与を持たないにせよ、言語聴覚士が臨床栄養学に関する知識を高めることは有意義と考える。今後も研鑽を重ね、栄養学的視点をもった摂食嚥下リハビリテーションを展開していきたい。